**校長　南部　潔**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす。**  **１　自立心と進取の気概を育成する**  **２　フェアなルール感覚を育成する**  **３　多文化共生・国際理解教育を推進する**  **４　科学的・論理的に考え、行動する人材を育成する** |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成   1. 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。   ア　説明・発表・討論等を通じて，「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。  イ　グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。  ウ　2020年度入試から始まる新しい時代に備え、積極的に研修に努め、新たな指導法と評価法を完成させる。   1. 「総合的な学習の時間」に展開している「課題研究」を充実させ、「総合的な探究の時間」の目標達成をめざす。 2. 国際教養科の教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。   ア　GTECを全員受験とし、英検やTOEFL、TOEIC等の受験を勧め、資格試験合格率アップをめざす（新しい大学入試に備える）。  イ　全員参加の海外修学旅行の継続、英語圏およびアジア圏への研修の充実、海外からの訪問者の受入れを従来通り積極的に行う。   1. この数年間に整備したICTや教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。 2. 希望進路達成率（第2希望も含めて）85%以上をめざす。 3. 2020年度入試から実施される、「大学入学共通テスト」を見据え、ｅポートフォリオの使用を前向きに検討するとともに新大学入試制度に関する情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。   ア　アクティブラーニング型の指導方法を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に身につけさせる。  イ　中教審答申には、「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。  ２　日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成  （１）クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。　※部活動加入率80％をめざす。   1. ユネスコスクールとして国際交流と地域交流を推進する。「人権」、「国際理解（協力）」、「ＥＳＤ」等の価値観に関する教育を通じて、グローバルな視野をもった人材を育成する。 2. 生徒会活動の活発化を図り、全生徒の自律心と自立心を高める。   ３　生徒の希望をかなえる学校づくり   1. 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育によって将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。   （２）遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。  （３）情報発信を重要視する。  （４）生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教職員の働き方改革も推進する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　確かな学力の育成 | （１）授業改革  「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。  （２）キャリア教育と課題研究  （３）英語教育と国際教育  （４）ICT等の活用  （５）希望進路達成率  （６）新学習指導要領や中教審答申に対応した授業や評価の実施 | （１）  ア　説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を行う  イ　グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高める。  ウ　新学習指導要領の実施と新しい入試を見据えたカリキュラムの作成  エ　授業において生徒の思考力や表現力を促すさまざまな工夫を行う。  （２）  ア　「キャリアスタディーズ（CS）」の内容を精選する。  イ　「総合的な探究の時間」の目標を見据えて「課題研究」に取り組む。  （３）  ア　GTECの全員受験を推進する  イ　英検、TOIEC、TOEFL等の受験を奨励する。  ウ　海外修学旅行、英語圏への生徒派遣・アジア圏との交流、海外からの訪問者受入れ事業を実施する。  （４）  ア　ICTや教育産業のコンテンツを活用する、より質の高い授業と講習を実施する。  イ　１年生の課題研究で生徒にICT機器を活用させる。  （５）希望進路達成率（第2希望含む）を向上させる。  （６）e-ポートフォリオの導入を前向きに検討する。  （アクティブラーニングの推進については  （１）ア　イ　に記す） | （１）　　　　　　　※（　）内はH30年度  ア　全教科で１回以上校内公開授業を行う。  イ　学校教育自己診断「考えをまとめたり、発表する機会がある」65％以上（62.9%）  ウ　カリキュラム検討委員会を設置し新カリキュラムの完成をめざす  エ　授業アンケート「６ 授業では自ら考え、表現（記述、発表、作品、パフォーマンスなど）する活動が多く取り入れられている」の肯定的評価70％以上。  （２）  ア　新たなCS年間スケジュールを文書化する。  イ　学校教育自己診断「進路選択を行う時にCSは役に立つと思う」68％（65.7％）  （３）  ア　卒業までにCEFR　 B1以上 20％  A２　 80％  イ　英語科で外部英語試験に向けたサポートをする。  ウ　①海外修学旅行、②英語圏への研修、③アジアとの交流、④海外訪問者受入れ事業を実施する。  （４）  ア　座学の授業の40％（37.9％）以上でICTを活用する。  イ　１年生全員が課題研究でICTを活用する。  （５）希望進路達成率（第2希望含む）  70％以上。（3年67％）  （６）企画会議、運営委員会でe-ポートフォリオの導入を検討する。 |  |
| ２　日常の中で自律し、  社会の中で自立できる人材の育成 | （１）クラブ加入率の増加  （２）ユネスコスクールの活動  （３）生徒会活動の活発化 | （１）クラブ加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援する。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。  （２）  ア　ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行うとともに、校内においてもその取組みが共有財産になるようにする。  イ　泉佐野市が主催する様々な地域イベントにユネスコスクールとして関わる。  （３）  ア　限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活発化させる。  イ　近隣支援学校や地域等との交流などに取り組めるようにする。 | （１）クラブ加入率78％（75.2％）  （２）  ア　国際理解教育等への肯定感  学校教育自己診断80％以上維持（81.9％）  イ　全国規模、地域規模の発表会やコンテストに１回以上参加。  （３）  ア、イ　生徒会活動への肯定感85％を目標とする。  学校教育自己診断「生徒会活動が活発である。」（81.3％） |  |
| ３　生徒の希望をかなえる学校づくり | （１）満足度の高い学校生活  （２）遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育推進、自宅学習時間の確保  （３）情報発信を重要視  （４）ノークラブデー活用と働き方改革 | （１）従来からの学校生活に対しての高い満足度をより向上させる。  （２）  ア　遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。  イ　高校1年生の出身中学校訪問を含め、中学生から「あこがれられる」高校生としてのあり方を追求する。（ボランティアや出前授業など）  ウ　メディアリテラシー教育（SNSに関する指導）を計画的に行う。  （３）  ア　全員で広報する体制をさらに強化する。  イ　広報スタイルをさらにブラッシュアップし、広報媒体（チラシ・リーフレット、WEB）に継続的に工夫を加える。  ウ　文書配布、ホームページ、メールの活用促進  （４）ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実践につなぐ。 | （１）学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」85％をめざす。（83.2%）  （２）  ア　年間総遅刻数2,000件以内を目標とする。（2,415件）  イ　高校１年生の出身中学校訪問を行う。  ウ　各学期の終業式にSNS活用に関する生徒指導課からの講話を行うとともに、外部講師による講演を実施する。  （３）  学校説明会や体験授業の参加者数の目標を  のべ1,500人以上とする。  （H30: 校内1,539人 校外　約278人）  （４）職員会議等機会あるごとに啓発を行う。  超勤月平均　30H（33.5H） |  |